

～ お取り寄せ ～



萬田 光輝



先日、ひょんなことから社内で好きなスイーツの話になりました。
私の好きなスイーツは断然、キャラメルです。
コンビニやファーストフード店でキャラメル味の商品が発売されるとつい
つい買ってしまう。数年前に北海道に行った時もキャラメル専門店が
あるのを事前に調べ、お土産に買って帰ったのを思い出しました。
また食べたいな～と思いつつネットを検索すると、電話注文できるようになっているではないです
か！早速注文し、毎日一つずつおいしく頂いています。みなさんもお取り寄せするほど好きなス
イーツがありますか？

私のつぶやき

～ 自分を知る長い旅 ～



島田 康恵



子供たちも大きくなり、長女は社会人一年生の真ただ中です。まだ二女には手も
お金も掛りますが、「何から何まで親が付いていない」という時期は終わってしま
いました。少しさみしく思いながら過ごしていた時に会ったある方が、「自分を知っ
て自分らしく生きよう」と色々なことに誘って下さいます。私自身、興味があることや、時間が合うときに
は出来るだけ参加するようにしています。「自分の事は自分が一番知っている」なんて思っていました。が、
別の角度から知れば知るほど、「自分ってこんな感じなんだ」「こんな風に見えるんだ」「こんなものが
似合うんだ」と様々な発見があり、とても楽しい時間を過ごしています。
まだまだ始まったばかりの「自分を知る長い長い旅」を、楽しんでいる最中です。

1～3月の税務・お知らせ

- ・1月…源泉所得税の納付
- ・2月…所得税の確定申告 2/15～ ・ 贈与税の申告 2/1～
- ・3月…所得税の確定申告 3/15まで ・ 贈与税の申告 3/15まで

お休みカレンダー

2019年 1月							2019年 2月							2019年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28			24	25	26	27	28	29	30

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol.39
冬号

2019年1月



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>

こんにちは、安野広明です。新年、明けましておめでとうございます！

1月3日(木)に、弊社の地域貢献活動として開催させていただいた「第4回コメディ・クラウン・サーカスin益田」は、お陰様で、大盛況に終えることができました。お子様のみならず、大人も一緒になって喜んでいる姿が印象的で、改めて、親子3世代で楽しめる素晴らしいイベントだと思います(自画自賛 笑)。
演じて下さったプレジャー企画の皆様、ご参加下さった皆様、ありがとうございました！さて、今年は亥年です。人口減少、少子高齢化、AI(人工知能)の進化に伴うビジネスモデルの変化など、時代は変革期の真ただ中にありますが、中小零細企業にとっては「一点集中」が基本的な戦略となりますので、自社の付加価値を高めていけるよう、「猪突猛進」して参りましょう！本年も、どうぞよろしくお願い致します！！



代表取締役
安野 広明

「いま起きているのは、未来の自分に必要なこと」

先日、弊社が事務局を務める益田木鶏クラブで主催した、博多の歴女こと白駒妃登美(しらこまひとみ)先生の講演会で、「いま起こっていることを、どう捉えるか？」についてのお話がありました。

白駒先生は、40代半ばで大病を患われ、医師からは「もう助からない」と告げられたそうです。そんな絶望の中、病床で歴史の本を執筆している際に、西郷隆盛の人生から、素晴らしい気付きを得たのだとか。

ご承知の通り、西郷隆盛は、明治維新の前、沖永良部島へ島流しにされ、悲惨な日々を送りました。しかも、その理由は、当時の薩摩藩の複雑な人間関係による、理不尽なものだったそうです。風雨にさらされる劣悪な環境の下、西郷隆盛は毎日、座禅を組み、本を何百冊と読む中で、佐藤一斎の『言志四録』という本に出会います。『言志四録』を読み、自分の心に響いたものを書き写しながら、人間力を磨き続けたのです。

島流しから薩摩へ戻った後、明治維新という社会変革が起こる訳ですが、あれだけ大きな革命だったにもかかわらず犠牲や混乱が小さくて済んだのは、西郷隆盛の存在が大きかったと、白駒先生はおっしゃっています。「江戸無血開城」を受け入れた西郷隆盛がいなかったら、日本の歴史は変わっていただろうと。

そしてその、「西郷隆盛の人間力はどこで培われたのか？」という沖永良部島で過ごした不遇な日々だったのです。逆に言えば、島流しの経験が無ければ、それほど人間力が大きくなかなかたかもしれません。とすれば、あの不遇の日々は、未来の日本のためにあったと言えるのではないだろうか…

白駒先生は、それまで、自分の身に起こることはすべて過去の結果だと思い込み、幼い子供2人を残して大病を患うことになった過去の自分を責め続けていたそうです。しかし、西郷隆盛の人生から、私たちの身に起こるのは、過去の結果だけではなく、未来に必要なことが起こっていると思えるようになってから、未来への希望を抑えきれなくなったとおっしゃっています。そして、きっと目には見えない力が働いたのでしょ、肺に転移していたがん細胞が綺麗に消えたのだとか。
白駒先生の実体験に基づく、とても印象的なエピソードです。

このように、「未来に答えがある」と思えば、それだけで捉え方が変わり、日常のすべての出来事が肥やしになるような気がします。

私自身、会社経営をする上では様々な課題に直面しますが、「いま起きているのは、未来の自分や会社にとって必要なこと」だと捉え、前向きに乗り切って行きたいと思いました。

そして、できることなら、どんなことでも受け入れる、「受けて立つ」という気概を持ちたいものです。

第34期経営計画発表会を開催いたしました。

昨年10月1日、サンパレス益田にて、ビジネスプランの経営計画発表会を開催し、約30名がご参加下さいました。

渡辺経営コンサルタント事務所の渡辺雅文先生に基調講演をしていただいた後、弊社代表の安野が34期の方針や社員への想いを熱く語りました。



「根っこづくりの経営」をテーマにお話し下さいました。



34期も社員一丸となって頑張ります！

セミナー紹介

弊社代表の安野が、昨年10月に江津商工会議所にて「未来会計」のセミナーを、11月に吉賀町商工会青年部(石央地区と石西地区の2カ所)にて、「経営計画」のセミナー講師をつとめました。



昨年5月にスタートした「人を大切にする経営実践講座全6回」が、10月、無事に終了しました。参加された皆様の熱いご感想は、弊社HPに掲載されています。今年の企画にも、乞うご期待下さい！



本の紹介



『睡眠こそ最強の解決策である』 著者：マシュー・ウォーカー

日常生活の中で当たり前になっている睡眠ですが、私自身、たまに睡眠時間を削ったり、生活における優先順位が低くなりがちなところがあったので、「睡眠が不足するとどうなるのか？」と思い、この本を手に取りました。

読み進めると、「こんな事にも影響してくるの？」と言いたくなるような内容もあり、十分な睡眠をとれば、食欲が増すことや、身体の運動機能の向上にも繋がる事には驚きました。
本書の内容は科学的根拠に基づいて書かれているので、非常に説得力があります。「人はなぜ眠るのか？」に焦点をあてて、睡眠をとることの重要性に気付かせてくれる一冊です。

平石 夕輝



「お客様にお届けするのは、成果物 + プロセス + 想い」



仕事をする上では、成果物にばかり目が行きがちですが、仮に、同じような成果物であったとしても、できるだけ手を抜こう、必要最低限だけやろう、体裁だけ整えておこうというスタンスで仕事をしたのか、お客様のことを真剣に考えながら準備に手間暇かけて丁寧な仕事をしたのかは、必ず相手に伝わると信じています。成果物と、そのプロセス、さらに言えば、商品・サービスに込めた想いというのは、一体となってお客様に届けられるのです。

それはあたかも、作物のようなもの。当然ですが、果物の実の部分だけをつくることなんてできません。果実は苗の一部であり、さらにその苗は、土や水や日光がなければ元気に育たないからです。そのように考えると、例えば、1粒の葡萄を食べるというのは、葡萄という果実のみならず、葡萄を育んだ土壌や天候や生産者の想いなど、すべてを口にはしていると言えるのではないのでしょうか。もちろん、それらは消費者の目には見えませんが、感じ取ることはできるはずです。

仕事も、作物と同じ。

ひとつひとつ心を込めて丁寧な仕事をすること、プロセスや想いを含め、お客様によりよいものをお届けしようという姿勢が大切だと考えています。

「“恩感力”が成長や成功を呼び込む」



メンタルトレーニングで有名な西田文郎(にしだふみお)先生は、「真の成功」に近づくためには「三感力」が必要であるとおっしゃっています。

具体的には、運を感じる「運感力」 喜びを感じる「喜感力」 恩を感じる「恩感力」 の3つの力を高めることです。

そして、個人的には、3つの中でも「恩感力」が重要ではないかと考えています。

「恩感力」とは、読んで字の如く、お世話になった人に感じる感謝心のこと。この力が弱く、自分のことしか考えない人は、必ずどこかで自己成長の壁にぶつかり、そこから先へは進めません。

例えば、「仕事をして給料をもらう」ということにおいても、「自分は仕事をしてやっている、給料をもらえるのは当然だ」というスタンスの人と、「自分1人では仕事はできないが、周りの人のお陰で仕事をさせていただいている。給料をもらえるのはありがたい」というスタンスの人と、どちらの人が成長するかと言えば、間違いなく後者でしょう。「恩感力」がある人の下には、成長や成功につながるチャンスが周りからやってくるはずです。

しかしながら、日々、仕事に忙殺されていると、「自分が誰かにしてあげたこと」や「自分にとって面倒くさい、不都合なこと」などには意識が向くけれども、周りの仲間、家族、会社からしてもらっていることには、なかなか意識が向かないもの…。いつの間にか視野が狭くなり、結果として、自己中心的な言動になってしまうのです。私自身、サラリーマン時代を振り返ると、上司や会社への「恩感力」が足りなかったな～と反省しております(汗)。

そしてこの「恩感力」を高めるために、上記の西田文郎先生がおっしゃっているのが、「まず親に感謝する心を磨くこと」です。

なぜならば、親や祖父母に感謝する心無くして、他人に深く感謝するということは難しいから。確かに、その通りかもしれませんね。

弊社では、6月を「親孝行月間」として親孝行を推奨していますが、これからも、「かけた恩は水に流し、受けた恩は石に刻め」の精神で、「恩感力」を高めたいものです。

「最初のズレが、大きなズレを招く」



例えば、折り紙で何かを折る時、最初の折り目からぴったりに折っていかないと、そのうち、合わせ目がズレてくるものです。そのまま折り続けることもできますが、最終的な仕上がりは不格好になるでしょう。

それが「折り鶴」であれば、顔の部分がグチャッとなるかもしれませんし、「紙飛行機」であれば、全体のバランスが崩れ、うまく飛ばないかもしれません。最初のほんの少しのズレが、最終的には大きなズレを招き、「きれいに仕上げる」という本来の目的(または理想の姿)を果たせなくなるのです。

そしてこのことは、会社置き換えても同じ。

会社において肝心要となるのは、「何のためにこの会社で働くのか？」といったビジョンや理念ですが、そういった「想い」の部分で社内のメンバーにズレ(=最初のズレ)があるとすれば、それはやがて、社員の個別具体的な行動のズレ(=大きなズレ)を招きます。結果的に、会社としての「まとまり」や「一貫性」は無くなり、当然、成果も上がらないでしょう。

ちなみに、サイズの小さい折り紙であるほど折り目が合わないことの影響が顕著に現れるのと同様、規模の小さい中小零細企業ほど、「想い」のズレによる影響は大きくなるはず。

だからこそ、中小零細企業における理念教育や理念採用はめちゃくちゃ重要ですし、「想い」のズレが生じないよう、日々、価値観を共有できる仕組み(=経営計画書等)が必要だと考えています。

< 安野からのおすすめコーナー >

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

ビジネス書 「なぜ今、世界のビジネスリーダーは東洋思想を学ぶのか」 (田口佳史 著)

アップルの創業者スティーブジョブスが「禅」に傾倒したことは有名ですが、いま、世界のトップは東洋的な思想に回帰していると言われています。同著では、東洋思想の専門家である著者が、「老子」「論語」「禅」といった東洋思想を、平易な言葉で分かりやすく紐解きながら、激変する時代を生き残るためのヒントを語っています。「西洋と東洋の知の融合」という発想は、商売をする上で参考になるはずです。

自己啓発書 「新・人は皆、自分だけは死なないと思っている」 (山村武彦 著)

防災と危機管理に関する本です。著者が災害現地調査で見て来た被災者たちの行動から、危機管理のための実践的な考え方が書いてあります。特に、人間の行動や考えを歪めるバイアス(=先入観、思い込み)についての話には、背筋がぞっとしました(汗)。最終的には、自分の身は自分で守るしかない訳ですが、知識として知っておく価値はあると思います。あと、実は、そのまま商売にも通じるところがありますので、ぜひご一読下さい。

小説 「キネマの神様」 (原田マハ 著)

39歳独身の歩は突然会社を辞めるが、折しも趣味は映画とギャンブルという父が倒れ、多額の借金が発覚。ある日、父が雑誌「映友」に歩の文章を投稿したのをきっかけに歩は編集部採用され、ひょんなことから父の映画ブログをスタートさせることに…。読み終わった後に清々しい気持ちになれる、映画好きにはおすすめの一冊です(笑)。

映画 「殿、利息でござる！」 (監督 中村義洋 / 原作 磯田道史『無私の日本人』)

金欠のため、百姓や町人へ容赦なく重税を課していた仙台藩。中でもさびれ果てた小さな宿場町・吉岡宿では、破産と夜逃げが相次いでいた。町の将来を心配する十三郎は、知恵者の篤平治から宿場復興の秘策を打ち明けられる。それは、藩に大金を貸し付け、利息を巻き上げるといふ、百姓が搾取される側から搾取する側に回る逆転の発想であった…。己を捨てて、ただ町のため、人のため、私財を投げ打ち悲願に挑む姿に感動しました。